

# 平成21年3月期 決算短信(非連結)

平成21年5月15日

上場会社名 サンメッセ株式会社

上場取引所 JQ

コード番号 7883 URL <a href="http://www.sunmesse.co.jp">http://www.sunmesse.co.jp</a>

(役職名) 代表取締役社長 代表者

問合せ先責任者(役職名)執行役員経理部長

(氏名) 田中 勝英 (氏名) 千代 耕司

TEL 0584-81-9111

定時株主総会開催予定日

平成21年6月24日 有価証券報告書提出予定日 平成21年6月24日 配当支払開始予定日

平成21年6月10日

(百万円未満切捨て)

1. 21年3月期の業績(平成20年4月1日~平成21年3月31日)

# (1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上	高	営業利	J益	経常和	J益	当期純:	利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期	14,512	△1.1	△105	_	△22	_	△146	_
20年3月期	14,676	Δ1.1	100	△80.2	219	△64.1	104	△70.9

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利 益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円銭	円 銭	%	%	%
21年3月期	△8.54	_	△1.4	△0.1	△0.7
20年3月期	6.07	6.06	0.9	1.1	0.7

(参考) 持分法投資損益

21年3月期 —百万円

20年3月期 —百万円

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
21年3月期	17,925	10,394	58.0	604.24
20年3月期	18,576	10,955	59.0	636.84

(参考) 自己資本 21年3月期 10,394百万円 20年3月期 10,955百万円

## (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
21年3月期	1,000	△663	△116	1,242
20年3月期	1,052	△1,123	115	1,022

# 2. 配当の状況

			1株当たり配当金			配当金総額	配当性向	純資産配当
(基準日)	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間	(年間)	配当注问	率
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
20年3月期	_	3.00	_	3.00	6.00	103	98.8	0.9
21年3月期	_	3.00	_	3.00	6.00	103	_	1.0
22年3月期 (予想)	_	3.00	_	3.00	6.00		504.2	

### 3. 22年3月期の業績予想(平成21年4月1日~平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上	高	営業和	川益	経常和	川益	当期純	利益	1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 累計期間	6,590	△6.8	△75	_	△40	_	△40	_	△2.37
通期	14,160	△2.4	20	_	95	_	20		1.19

### 4. その他

- (1) 重要な会計方針の変更
  - ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
  - ② ①以外の変更 無
  - - (注)詳細は、19ページ「重要な会計方針の変更」をご覧ください。
- (2) 発行済株式数(普通株式)
  - ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期 17,825,050株 20年3月期 17,825,050株 21年3月期 622,450株 20年3月期 622,132株
  - (注)1株当たり当期純利益の算定の基礎となる株式数については、35ページ「1株当たり情報」をご覧ください。

# ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、 実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等について は、3ページ「1. 経営成績 (1) 経営成績に関する分析」をご覧ください。

#### 1. 経営成績

### (1) 経営成績に関する分析

#### ① 当事業年度の経営成績

当事業年度におけるわが国経済は、世界的な金融危機の深刻化等の影響に加え、資源価格の乱高下、為替の急激な円高への進行による輸出産業の業況悪化など、国内企業は大幅な減産や設備投資の抑制を余儀なくされました。また、雇用情勢の悪化から個人消費も急速に落ち込み、景気回復への道のりは今なお険しいものとなっております。

印刷業界におきましては、景気後退に伴う広告宣伝費の削減により、受注競争が激化し受注単価が下落する一方、原材料価格の上昇により利益率が低下するなど経営環境は極めて厳しい状況が続きました。

当社は、このような事業環境のなかで「売上200億円体制『実現の年』」を会社の年度方針として、新規開拓営業、深耕営業を推進し、積極的な設備投資や更なる原価低減と生産効率の向上に努めてまいりました。しかしながら、景気悪化による需要の急激な減少や破産債権の発生などにより、特に利益面におきましては不本意な結果となりました。

これらの結果、売上の部門別では、一般商業印刷物は、社内報・会報などが前事業年度を下回りましたが、カタログ・ダイレクトメールなどが前事業年度を上回り、横ばいの112億6百万円(前事業年度比100.1%)となりました。また、出版印刷物は引き続き大口取引先の受注の減少が大きく18億41百万円(前事業年度比85.4%)、包装印刷物はパッケージなどが前事業年度を上回り14億65百万円(前事業年度比110.3%)となりました。

利益面におきましては、受注単価の下落の影響により売上総利益が低下したことや、取引先の経営破たんによる貸倒引当金繰入額の増加等の影響もあり、営業損失、経常損失、当期純損失という大変厳しい結果となりました。

以上の結果、売上高は145億12百万円と前事業年度に比べて1.1%の減収となり、利益面におきましては、 営業損失1億5百万円、経常損失22百万円、当期純損失は1億46百万円となりました。

#### ② 次期の見通し

次期の見通しにつきましては、わが国経済は景気回復の見通しが立たない中、引き続き厳しさを増すもの と思われます。また、印刷業界におきましても、需要低迷、競争激化、与信不安の増大など、一段と厳しい 経営環境が続くものと予想されます。

このような環境下にあって当社は、「業績向上の年」を会社方針とし、新規顧客開拓および深耕ターゲットの達成、ムダ・ムラ・ムリの削除や機械設備の効率性アップへの取組み、更には合理化投資につきましても積極的に実施していきたいと考えております。なお、1月には中工場にパッケージの印刷に適したUV印刷機の導入と、本社工場には衛生管理を徹底した専用ルームの増設をいたしました。また、7月にはA横全判輪転印刷機、10月にはB縦半切輪転印刷機の導入(共に既存設備の更新)が決定しております。

以上のことから、次期の業績の見通しといたしましては、売上高141億60百円、営業利益20百万円、経常利益95百万円、当期純利益20百万円を見込んでおります。

#### (2) 財政状態に関する分析

① 資産、負債及び純資産の分析

#### (流動資産)

当事業年度末における流動資産は、前事業年度末と比べて3億80百万円減少し、55億2百万円となりました。これは、現金及び預金が2億20百万円増加しましたが、受取手形が1億48百万円、売掛金が2億76百万円それぞれ減少したこと等が主な要因であります。

#### (固定資産)

当事業年度末における固定資産は、前事業年度末と比べて2億71百万円減少し、124億22百万円となりました。これは、繰延税金資産が1億41百万円増加しましたが、株式相場の下落等により投資有価証券が5億17百万円減少したこと等が主な要因であります。

## (流動負債)

当事業年度末における流動負債は、前事業年度末と比べて3億97百万円減少し、51億27百万円となりました。これは、買掛金が1億52百万円、未払法人税等が1630百万円それぞれ減少したこと等が主な要因であります。

#### (固定負債)

当事業年度末における固定負債は、前事業年度末と比べて3億7百万円増加し、24億2百万円となりました。これは、リース債務が当事業年度に97百万円発生したことや、平均勤続年数の増加等のため、退職給付引当金が1億48百万円増加したこと等が主な要因であります。

#### (純 資 産)

当事業年度末における純資産は、前事業年度末と比べて5億60百万円減少し、103億94百万円となりました。これは、当期純損失計上等のため、繰越利益剰余金が2億50百万円減少したことや、株式相場の下落による時価評価差益の減少のため、その他有価証券評価差額金が3億10百万円減少したことが主な要因であります。

### ② キャッシュ・フローの分析

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、財務活動による資金の減少が、前事業年度と比べて2億32百万円多くなりましたが、投資活動による資金の減少が、前事業年度と比べて4億60百万円少なくなったこと等により、前事業年度と比べて2億20百万円増加し、当事業年度末には12億42百万円となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において営業活動による資金の増加は、前事業年度と比べて52百万円減少し、10億円となりました。これは、営業収入が2億10百万円前事業年度と比べて増加しましたが、原材料の仕入・外注費の支出が2億13百万円、消費税等の支払額が1億34百万円それぞれ前事業年度と比べて増加したこと等によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において投資活動による資金の減少は、前事業年度と比べて4億60百万円減少し、6億63百万円となりました。これは、投資有価証券の取得による支出が1億64百万円前事業年度と比べて増加しましたが、有形固定資産の取得による支出が6億48百万円前事業年度と比べて減少したこと等によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動による資金の減少は、前事業年度と比べて2億32百万円増加し、1億16百万円となりました。これは、短期借入れによる収入が90百万円前事業年度と比べて減少し、短期借入金の返済による支出が1億40百万円前事業年度と比べて増加したこと等によるものであります。

#### (参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

(2 0) (1)	1 - 12				
	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
	3月期	3月期	3月期	3月期	3月期
自己資本比率(%)	57. 1	59. 6	58. 3	59. 0	58. 0
時価ベースの自己資本比率 (%)	46. 9	47. 7	42. 4	39. 7	38. 0
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	1. 9	3. 6	1. 2	2. 1	2. 3
インタレスト・カバレッジ・レシオ	45. 6	22. 3	47. 1	24. 7	24. 2

### (注) 自己資本比率 : 自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率:有利子負債/キャッシュ・フローインタレスト・カバレッジ・レシオ:キャッシュ・フロー/利払い

※株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数により算出しております。

※キャッシュ・フローはキャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。また、利払いについては、キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

### (3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

#### ① 利益配分に関する基本方針

当社は、将来における経営体質の強化や収益の向上に必要な設備投資、研究開発等を実行するための内部留保資金を確保しつつ、経営成績などを勘案し、安定かつ継続的に行うことを配当政策の基本方針としております。

今後につきましても基本方針を維持しつつ、中長期的な設備計画、事業展開を図る中で、株主に対する利益還元を経営上重要な施策の一つとして位置づけ、一層の株主価値向上を目指し、経営成績を考慮した配当政策を実施してまいります。

#### ② 当期・次期の配当

当事業年度の期末配当金につきましては、1株当たり3円の実施を予定しており、中間配当金として1株

当たり3円をお支払いたしておりますので、当事業年度の年間配当金は、1株当たり6円となります。この結果、純資産配当率は1.0%となります。

次期の配当金につきましては、基本方針に基づき、1株当たり年間配当金6円を予定しております。

#### (4) 事業等のリスク

経営成績及び財政状態に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

#### ① 印刷用紙の価格変動について

当社の製品の主要材料のほとんどは印刷用紙が占めております。その印刷用紙の価格は市況により変動いたします。急激な市況の変化による仕入価格の上昇により、販売価格に転嫁するまでにタイムラグが生じたり、完全に販売価格に転嫁できない場合は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

## ② 有価証券投資について

当社は、取引先との関係を友好かつ強固なものにするため、主要取引先の株式を所有しております。当事業年度末における有価証券、投資有価証券及び関係会社株式の貸借対照表計上額の合計は22億17百万円であり、当社の総資産額(当事業年度末179億25百万円)に対して多額なものとなっております。従いまして、株式相場の推移状況によっては、将来の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに影響を及ぼす可能性があります。

#### ③ 個人情報の管理について

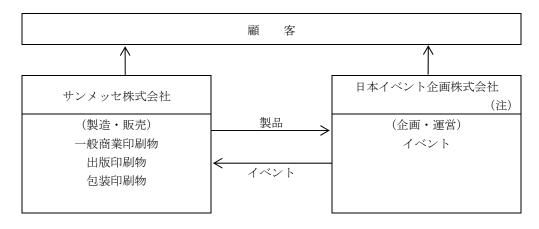
当社は、個人情報の管理に十分留意しており、プライバシーマークも取得し、現在まで個人情報の流出による問題は発生しておりませんが、今後、不測の事態により、万が一、個人情報の流出による問題が発生した場合、当社への損害賠償請求や信用の低下等により、業績に影響を及ぼす可能性があります。

## 2. 企業集団の状況

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社及び子会社1社により構成されており、一般商業印刷物、 出版印刷物及び包装印刷物の製造、販売並びにイベントの企画、運営を主たる事業の内容としております。

### [事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次の通りであります。



(注) 非連結子会社であります。

#### 3. 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社は「革新」「法令順守」「環境」の3つを経営の柱とし、常にお客様を第一に考え、人・物・情報を集積・発信し、印刷を核に、社会に貢献することを経営理念として掲げ、更に下記の5つの経営基本方針によって、当社が目指すべき姿を明確にしております。

#### ① 積極経営

変化に迅速に対応できる企業を目指すため、俊敏な判断力と行動力で対応すると共に前向きな投資には積極的に取り組んでいきます。

② イノベーション経営

柔軟で多面的な広い視野を持ち、継続的に変革・革新を続けます。

③ コンプライアンス経営

法令、規律を順守し、社会的信用のある企業経営を堅持します。

④ 環境経営

ISO14001、FSC認証取得企業として、環境保全に積極的に取り組んでいきます。

⑤ 人間尊重企業

自由闊達の社風を尊重し、社員の主体性、創造性、チャレンジ精神を大切にします。

### (2) 目標とする経営指標

当社は、生産性の向上と経費削減を推進することにより営業利益率を高め、自己資本当期純利益率 (ROE)を向上することを目標とし、企業価値の増大に努めていく所存であります。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社は、東京、名古屋、大阪を最重要拠点と位置づけ、更に東海道ベルト地帯の中核都市への進出を図ると共に、営業力を強化して積極的な営業を展開してまいります。また、積極的な合理化設備投資により生産性の向上に努めるとともに、データに基づいた科学的分析を駆使し、合理的な経営体制を追求していきます。

なお、ISO9001取得企業として、全体最適な生産体制を追求して、品質の安定化を図り、ITへの取り組みを強化して、長年培ってきた印刷技術を生かした当社独自の製品を開発するために、長期的視野に立った研究開発に取組んでまいります。

更には、「企業は人なり」との認識のもと、社員教育を推進してレベルアップを図ると共に、顧客との接点である営業マンと企画マンの育成や、安定した企業として存続、成長していくために将来の経営幹部の人材育成を図ってまいります。

また、企業の社会的責任を果たすため、法令・社会的規範の順守はもとより、企業倫理を高める活動を推進してまいります。特に、個人情報の保護・管理につきましては、「プライバシーマーク」取得企業として、お客様から安心して任せていただけるように、安全性・信頼性を追及してまいります。更に、ISO14001及びFSC認証取得と環境優良工場の経済産業大臣賞受賞企業として、模範的環境企業を目指した積極的な環境保全活動を推進すると共に、不正のない組織を維持していくために内部統制システムの強化を図り、健全な企業経営に努めていく所存です。

#### (4) 会社の対処すべき課題

- ① 「顧客第一主義」と捉え、顧客に密着したフェイス・トゥ・フェイスでのソリューション型営業展開を推し 進め、新規成長顧客の開拓と共に既存マーケットの再開拓とシェアの拡大を図ってまいります。
- ② 営業企画、デザインの能力アップを図り、企画競争力を増強し、価格競争によらない特命受注の増加を推進すると共に、科学的な分析による作業フローの見直しによって顧客の信頼を得る価格設定を行なうよう努めてまいります。
- ③ デジタルデータを活用するビジネスモデルやデジタル技術を活用した印刷物製作技術を積極的に販促展開して、単なる印刷物から高付加価値製品への脱皮を図り、印刷物から広がる派生ビジネスとして、当社のあらゆる部門と協業、拡販してワンソース・マルチユースを進めてまいります。また、あらゆる分野の叡智を結集して新製品の開発にも力を入れていく所存です。
- ④ プリプレス、プレス、ポストプレスの全体最適化を目指し、ボトルネック部門の強化を積極的に行い、全体的な処理能力の向上を図ると共に、コストの低減を実現し、利益の出せる体制作りを推進してまいります。 更に研究開発部門の強化により、次の収益力の柱となる事業の確立を目指してまいります。
- ⑤ 人材育成が重要課題の一つであるとの認識に基づき、社員の専門分野の知識・技術の向上と総合知識のレベルアップ、そして管理職の管理能力の更なるレベルアップを図るなど教育体制を充実し、社員の成長を支援する仕組みを整備してまいります。

⑥ 品質、環境、個人情報保護及びFSC (森林認証) のそれぞれのマネジメントシステムの統合を進め、ルールを作り、その実施を求めるだけのシステムではなく、簡素化された、より実践的で効果的なマネジメントシステムの構築を目指してまいります。

# 4. 財務諸表 (1) 貸借対照表

	前事業年度 (平成20年3月31日)	当事業年度 (平成21年3月31日)
登産の部		
流動資産		
現金及び預金	1, 052, 543	1, 272, 60
受取手形	1, 098, 617	949, 74
売掛金	2, 773, 674	2, 497, 56
有価証券	199, 990	200, 38
製品	120, 879	101, 38
原材料	110, 751	_
仕掛品	289, 619	240, 40
貯蔵品	18, 509	_
原材料及び貯蔵品	_	118, 66
前払費用	12, 310	10, 47
繰延税金資産	198, 000	167, 00
その他	55, 670	27, 03
貸倒引当金	△48, 156	△83, 24
流動資産合計	5, 882, 409	5, 502, 02
固定資産		
有形固定資産		
建物	*2 5, 326, 168	<sup>*2</sup> 5, 302, 03
減価償却累計額	$\triangle 2,737,465$	$\triangle 2,830,76$
建物(純額)	*1 2, 588, 702	<sup>*1</sup> 2, 471, 26
構築物	262, 799	263, 38
減価償却累計額	△191, 692	△202, 69
構築物(純額)	71, 106	60, 68
機械及び装置	11, 023, 496	10, 984, 21
減価償却累計額	$\triangle 8, 342, 539$	$\triangle 8, 228, 59$
機械及び装置(純額)	2, 680, 956	2, 755, 62
車両運搬具	200, 119	188, 31
減価償却累計額	<u>△</u> 165, 159	△161, 12
車両運搬具(純額)	34, 960	27, 19
工具、器具及び備品	*2 457, 231	<sup>**2</sup> 459, 04
減価償却累計額	△380, 921	$\triangle 375, 42$
工具、器具及び備品(純額)	76, 310	83, 61
土地	*1, *2 3, 845, 672	*1, *2 3, 840, 53
リース資産	_	117, 08
減価償却累計額		△9, 30
リース資産 (純額)	<u> </u>	107, 78
建設仮勘定		34, 70
有形固定資產合計	9, 297, 708	9, 381, 41
	3, 231, 100	3, 001, 11
無形固定資産 借地権	950	95
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	44, 530	53, 71
リース資産	44, 550	7, 89
ソフトウエア仮勘定	24, 139	1, 88
電話加入権	5, 933	5, 93
施設利用権	610	5, 93
/巴取 个1777年	76, 164	68, 99

(単位・千円)
---------

		(単位:千円)
	前事業年度 (平成20年3月31日)	当事業年度 (平成21年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	2, 485, 208	1, 967, 532
関係会社株式	50, 000	50,000
出資金	1,006	1,006
破産更生債権等	127, 550	273, 163
長期前払費用	76, 344	85, 463
繰延税金資産	576, 000	717, 000
会員権	118, 978	69, 638
その他	73, 209	76, 180
貸倒引当金	△188, 116	△267, 396
投資その他の資産合計	3, 320, 181	2, 972, 589
固定資産合計	12, 694, 055	12, 422, 996
資産合計	18, 576, 464	17, 925, 017
負債の部		
流動負債		
支払手形	385, 847	376, 516
買掛金	1, 663, 937	1, 511, 142
短期借入金	*1 2,080,000	<sup>*1</sup> 2, 120, 000
1年内返済予定の長期借入金	100, 000	<sup>*1</sup> 50, 000
リース債務	_	21, 260
未払金	148, 188	103, 381
未払費用	403, 805	391, 168
未払消費税等	104, 839	10, 717
未払法人税等	145, 000	15, 000
前受金	32, 885	14, 970
預り金	33, 127	31, 566
前受収益	1, 277	454
賞与引当金	374, 000	274, 000
設備関係支払手形	28, 664	153, 344
設備関係未払金	21, 638	51, 286
その他	2, 458	2, 944
流動負債合計	5, 525, 669	5, 127, 754
固定負債		
長期借入金	<sup>*1</sup> 50, 000	100, 000
リース債務	_	97, 259
退職給付引当金	1, 777, 407	1, 926, 015
役員退職慰労引当金	254, 801	269, 474
その他	13, 136	9, 973
固定負債合計	2, 095, 345	2, 402, 722
負債合計	7, 621, 015	7, 530, 476

		(単位:千円)
	前事業年度 (平成20年 3 月31日)	当事業年度 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1, 236, 114	1, 236, 114
資本剰余金		
資本準備金	1, 049, 534	1, 049, 534
資本剰余金合計	1, 049, 534	1, 049, 534
利益剰余金		
利益準備金	114, 949	114, 949
その他利益剰余金		
別途積立金	7, 500, 000	7, 500, 000
繰越利益剰余金	952, 786	702, 604
利益剰余金合計	8, 567, 735	8, 317, 554
自己株式	△405, 065	△405, 195
株主資本合計	10, 448, 319	10, 198, 008
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	507, 130	196, 532
評価・換算差額等合計	507, 130	196, 532
純資産合計	10, 955, 449	10, 394, 540
負債純資産合計	18, 576, 464	17, 925, 017

# (2) 損益計算書

	前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	(単位:千円) 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
	14, 676, 495	14, 512, 52
売上原価	22, 111, 211	,,
製品期首たな卸高	127, 641	120, 879
当期製品製造原価	12, 030, 115	11, 938, 254
合計	12, 157, 757	12, 059, 134
製品期末たな卸高	120, 879	101, 38
製品売上原価	12, 036, 877	*1 11, 957, 753
売上総利益	2, 639, 617	2, 554, 768
販売費及び一般管理費		_, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -,
運賃及び荷造費	411, 450	416, 738
旅費及び交通費	35, 857	34, 925
通信費	24, 308	24, 049
交際費	47, 495	45, 939
貸倒引当金繰入額	35, 378	164, 623
貸倒損失	152	6
役員報酬	127, 080	121, 41
給料及び手当	889, 733	929, 733
賞与及び手当	114, 174	121, 16
賞与引当金繰入額	117, 748	90, 52
退職給付引当金繰入額	77, 175	69, 09
厚生年金掛金	48, 774	50, 19
役員退職慰労引当金繰入額	14, 148	14, 673
法定福利費	131, 416	135, 65
減価償却費	54, 751	52, 629
その他	409, 955	389, 14
販売費及び一般管理費合計	*2 2, 539, 599	*2 2,660,55°
営業利益又は営業損失(△)	100, 017	△105, 788
営業外収益	,	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
受取利息	990	1, 099
有価証券利息	1, 745	2, 060
受取配当金	37, 907	38, 75
不動産賃貸料	70, 067	65, 82
作業くず売却益	30, 687	23, 40
工場設置奨励金	21, 925	12, 23
その他	32, 795	29, 88
営業外収益合計	196, 119	173, 269
営業外費用		110, 20
支払利息	36, 061	37, 40
売上割引	5, 367	5, 49
不動産賃貸費用	35, 325	35, 19
社葬費		10, 23
その他	0	1, 76
営業外費用合計	76, 755	90, 10
経常利益又は経常損失(△)	219, 382	$\triangle$ 22, 623

				(単位:千円)
	(自 至	前事業年度 平成19年4月1日 平成20年3月31日)	(自 至	当事業年度 平成20年4月1日 平成21年3月31日)
特別利益				
固定資産売却益		*3 1,691		** <sup>3</sup> 8, 987
投資有価証券売却益		236, 239		32, 324
未払金戻入益		_		20, 314
過年度償却済債権取立益		47		82
その他		136		4, 522
特別利益合計		238, 116		66, 231
特別損失				
固定資産売却損		<sup>**4</sup> 3, 582		<sup>**4</sup> 15, 613
固定資産廃棄損		<sup>**5</sup> 12, 337		<sup>**5</sup> 28, 807
投資有価証券評価損		45, 430		37, 949
貸倒引当金繰入額		124, 328		_
会員権貸倒引当金繰入額		2, 457		_
会員権評価損		5, 437		1,740
特別損失合計		193, 573		84, 110
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)		263, 924		△40, 501
法人税、住民税及び事業税		217, 448		25, 868
法人税等調整額		△57, 913		80, 594
法人税等合計		159, 535		106, 462
当期純利益又は当期純損失 (△)		104, 389	•	△146, 964

# (3) 株主資本等変動計算書

(3) 株主資本等変動計算書				(単位:千円)
	(自 至	前事業年度 平成19年4月1日 平成20年3月31日)	(自 至	当事業年度 平成20年4月1日 平成21年3月31日)
朱主資本				
資本金				
前期末残高		1, 236, 114		1, 236, 11
当期変動額				
当期変動額合計		_		-
当期末残高		1, 236, 114		1, 236, 11
資本剰余金				
資本準備金				
前期末残高		1, 049, 534		1, 049, 53
当期変動額				
当期変動額合計		<del>-</del>		-
当期末残高		1, 049, 534		1, 049, 53
資本剰余金合計				
前期末残高		1, 049, 534		1, 049, 53
当期変動額				
当期変動額合計				-
当期末残高		1, 049, 534		1, 049, 53
利益剰余金				
利益準備金				
前期末残高		114, 949		114, 94
当期変動額				
当期変動額合計		_		-
当期末残高		114, 949		114, 94
その他利益剰余金				
別途積立金				
前期末残高		7, 500, 000		7, 500, 00
当期変動額				
当期変動額合計				
当期末残高		7, 500, 000		7, 500, 00
繰越利益剰余金				
前期末残高		960, 216		952, 78
当期変動額		A 111 010		A 100 01
剰余金の配当		$\triangle 111,819$ $104,389$		$\triangle 103, 21$
当期純利益		·		△146, 96
当期変動額合計		△7, 430		△250, 18
当期末残高		952, 786		702, 60
利益剰余金合計				
前期末残高		8, 575, 165		8, 567, 73
当期変動額				
剰余金の配当		△111, 819		△103, 21
当期純利益		104, 389		△146, 96
当期変動額合計		△7, 430		△250, 18
当期末残高		8, 567, 735		8, 317, 55

		(単位:千円)
	前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)	当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
自己株式		
前期末残高	△404, 999	△405, 065
当期変動額		
自己株式の取得	△66	△130
当期変動額合計	△66	△130
当期末残高	△405, 065	△405, 195
株主資本合計		
前期末残高	10, 455, 815	10, 448, 319
当期変動額		
剰余金の配当	△111,819	△103, 216
当期純利益	104, 389	△146, 964
自己株式の取得	△66	△130
当期変動額合計	△7, 496	△250, 311
当期末残高	10, 448, 319	10, 198, 008
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	1, 032, 649	507, 130
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	$\triangle 525, 519$	△310, 598
当期変動額合計	△525, 519	△310, 598
当期末残高	507, 130	196, 532
評価・換算差額等合計		
前期末残高	1, 032, 649	507, 130
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額) _	△525, 519	△310, 598
当期変動額合計	△525, 519	△310, 598
当期末残高	507, 130	196, 532
純資産合計		
前期末残高	11, 488, 465	10, 955, 449
当期変動額		
剰余金の配当	△111, 819	△103, 216
当期純利益	104, 389	△146, 964
自己株式の取得	△66	△130
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△525, 519	△310, 598
当期変動額合計	△533, 015	△560, 909
当期末残高	10, 955, 449	10, 394, 540

# (4) キャッシュ・フロー計算書

(4) キャッシュ・フロー計算者				(単位:千円)
	(自 至	前事業年度 平成19年4月1日 平成20年3月31日)	(自 至	当事業年度 平成20年4月1日 平成21年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー				
営業収入		15, 281, 985		15, 492, 574
原材料の仕入・外注費の支出		$\triangle 7, 273, 656$		$\triangle 7, 487, 542$
人件費の支出		$\triangle 4,937,980$		△4, 884, 210
その他の営業支出		$\triangle 1,755,682$		$\triangle 1,748,611$
小計		1, 314, 666		1, 372, 209
不動産賃貸料等の受取額		154, 388		134, 133
不動産賃貸支出の支払額		$\triangle 10, 267$		$\triangle 11,397$
立替金等の支出		△528, 076		△797, 287
立替金等の回収による収入		527, 997		813, 398
消費税等の還付額		34, 858		_
消費税等の支払額		△221, 859		△356, 521
法人税等の支払額		△219, 115		△154, 346
営業活動によるキャッシュ・フロー		1, 052, 589		1, 000, 188
投資活動によるキャッシュ・フロー				
有形固定資産の取得による支出		$\triangle 1, 364, 155$		△715, 840
有形固定資産の売却による収入		15, 973		34, 779
無形固定資産の取得による支出		$\triangle 20,574$		△31,500
投資有価証券の取得による支出		△72, 394		△236, 960
投資有価証券の売却及び償還による収入		269, 554		249, 458
利息及び配当金の受取額		35, 706		36, 397
その他の支出		△4,804		△3, 860
その他の収入		16, 825		3, 916
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1, 123, 869		△663, 608
財務活動によるキャッシュ・フロー				
短期借入れによる収入		1, 300, 000		1, 210, 000
短期借入金の返済による支出		$\triangle 1,030,000$		△1, 170, 000
リース債務の返済による支出		_		△9, 884
自己株式の取得による支出		$\triangle 66$		△130
配当金の支払額		△111, 363		△105, 251
利息の支払額		△42 <b>,</b> 644		$\triangle 41,257$
財務活動によるキャッシュ・フロー		115, 925		△116, 522
現金及び現金同等物に係る換算差額		_		_
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		44, 645		220, 057
現金及び現金同等物の期首残高		977, 898		1, 022, 543
現金及び現金同等物の期末残高		<sup>*1</sup> 1, 022, 543		*1 1, 242, 601
S	-	, , ,		, -,

(5) 継続企業の前提に関する注記 該当事項はありません。

# (6) 重要な会計方針

(6) 里安な会計力針	**************************************	<b>小本张左左</b>
	前事業年度	当事業年度
項目	自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日
	至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日
1. 有価証券の評価基	(1)子会社株式	(1)子会社株式
準及び評価方法	移動平均法による原価法	同左
	(2) その他有価証券	(2)その他有価証券
	時価のあるもの	時価のあるもの
	期末日の市場価格等に基づく時価法(評	同左
	価差額は全部純資産直入法により処理	
	し、売却原価は移動平均法により算定)	
	時価のないもの	時価のないもの
	移動平均法による原価法	同左
2. たな卸資産の評価	(1)製品及び仕掛品	(1)製品及び仕掛品
基準及び評価方法	個別法による原価法	個別法による原価法(貸借対照表価額につ
		いては収益性の低下に基づく簿価切下げの
		方法)
	(2)原材料	(2)原材料
	総平均法による原価法	総平均法による原価法(貸借対照表価額に
		ついては収益性の低下に基づく簿価切下げ
		の方法)
	(3) 貯蔵品	(3) 貯蔵品
	最終仕入原価法による原価法	最終仕入原価法による原価法(貸借対照表
	水水 江 / / / /	価額については収益性の低下に基づく簿価
		切下げの方法)
0 日ウ次さの計年時	(1) 七形田ウ次立	
3. 固定資産の減価償	(1)有形固定資産	(1)有形固定資産(リース資産を除く)
却の方法	法人税法に規定する方法と同一の基準による方法と同一の表準による方法と同じによることによることによることによることによることによることによることによること	同左
	る定率法によっております。	
	ただし、平成10年4月1日以降に取得した	
	建物(附属設備を除く)については、定額法	
	を採用しております。	
	(2)無形固定資產	(2)無形固定資産(リース資産を除く)
	法人税法に規定する方法と同一の基準によ	同左
	る定額法によっております。	
	なお、自社利用のソフトウエアについて	
	は、社内における利用可能期間(5年)に基	
	づいております。	
	(3)	(3)リース資産
		リース期間を耐用年数とし、残存価額を零
		とする定額法によっております。
į.		- こり公比似仏によつしわりまり。
		かわ 正左接殺制 カーノよいコーローコ
		なお、所有権移転外ファイナンス・リース
		取引のうち、リース取引開始日が平成20年3
		取引のうち、リース取引開始日が平成20年3 月31日以前のリース取引については、通常の
		取引のうち、リース取引開始日が平成20年3 月31日以前のリース取引については、通常の 賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によ
		取引のうち、リース取引開始日が平成20年3 月31日以前のリース取引については、通常の
	(4)長期前払費用	取引のうち、リース取引開始日が平成20年3 月31日以前のリース取引については、通常の 賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によ
	(4)長期前払費用 法人税法に規定する方法と同一の基準によ	取引のうち、リース取引開始日が平成20年3 月31日以前のリース取引については、通常の 賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によ っております。

	前事業年度	当事業年度
項目	自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日
	至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日
4. 引当金の計上基準	(1)貸倒引当金	(1)貸倒引当金
	債権の貸倒れによる損失に備えるため、一	同左
	般債権については貸倒実績率により、貸倒懸	
	念債権等特定の債権については個別に回収可	
	能性を検討し、回収不能見込額を計上してお	
	ります。	
	(2)賞与引当金	(2)賞与引当金
	従業員の賞与の支払に備えるため、支給見	同左
	込額を計上しております。	, <u>.</u>
	(3) 退職給付引当金	(3)退職給付引当金
	従業員の退職給付に備えるため、期首にお	同左
	いて算定した当事業年度末における退職給付	1: 3:
	債務及び年金資産の見込額に基づき計上して	
	おります。	
	数理計算上の差異は、その発生時の従業員	
	の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5	
	年)による定額法により按分した額をそれぞ	
	れ翌事業年度から費用処理しております。	
	(4)役員退職慰労引当金	(4)役員退職慰労引当金
	役員退職慰労金の支出に備えるため、役員	同左
	退職慰労金内規に基づく期末要支給額を計上	,
	しております。	
5. リース取引の処理	リース物件の所有権が借主に移転すると認め	
方法	られるもの以外のファイナンス・リース取引に	
	ついては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じ	
	た会計処理によっております。	
6. キャッシュ・フロ	キャッシュ・フロー計算書における資金(現	同左
ー計算書における資	金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出	
金の範囲	し可能な預金及び容易に換金可能であり、か	
	つ、価値の変動について僅少なリスクしか負わ	
	ない取得日から3か月以内に償還期限の到来す	
	る短期投資からなります。	
7. その他財務諸表作	消費税等の会計処理	消費税等の会計処理
成のための基本とな	消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜	同左
る重要な事項	方式によっております。	

## (7) 重要な会計方針の変更

(7) 重要な会計方針の変更	
前事業年度	当事業年度
自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日
至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日
(有形固定資産の減価償却方法の変更)	
法人税法の改正((所得税法等の一部を改正する法律	
平成19年3月30日 法律第6号)及び(法人税法施行令の	
一部を改正する政令 平成19年3月30日 政令第83号))	
に伴い、平成19年4月1日以後に取得したものについて	
は、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。	
なお、この変更による損益に与える影響は軽微でありま	
す。	
	(たな卸資産の評価基準及び評価方法の変更) 当事業年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」 (企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)を適用しております。この結果、従来の方法によった場合に比べ、営業損失、経常損失及び税引前当期純損失は、それぞれ30,651千円増加しております。 (リース取引に関する会計基準) 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計去協会会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 これによる当事業年度の損益に与える影響はありません。

# (8) 表示方法の変更

- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
前事業年度	当事業年度
自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日
至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日
(損益計算書関係)	
営業外収益	
前事業年度において、営業外収益の「その他」に含め	
て表示しておりました「工場設置奨励金」は、営業外収	
益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より区	
分掲記いたしました。なお、前事業年度の営業外収益の	
「その他」に含まれる「工場設置奨励金」は7,709千円	
であります。	

# (9) 追加情報

前事業年度	当事業年度
自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日
至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日
(有形固定資産の償却可能限度額の廃止に伴う既存資産の	
残存簿価の会計処理)	
「重要な会計方針の変更」(有形固定資産の減価償却方	
法の変更)に記載した通り、平成19年4月1日以後に取得	
したものについて、改正後の法人税法に基づく方法に変更	
しておりますが、平成19年3月31日以前に取得したものの	
うち償却可能限度額まで償却が進んだものの残存簿価につ	
いては、5年間で均等償却を行う方法を採用しておりま	
す。	
この結果、従来の方法によった場合に比べ、売上原価は	
34,605千円増加、売上総利益は同額減少、販売費及び一般	
管理費は2,522千円増加、営業利益、経常利益及び税引前	
当期純利益は37,127千円減少しております。	
	1

# (10) 財務諸表に関する注記事項

# (貸借対照表関係)

前事業年	连度	当事業	年度
平成20年3月31日		平成21年3月31日	
※1.担保に供している資産		※1. 担保に供している資産	
建物 (純額)	504,355千円	建物(純額)	473,849千円
土地	2,137,391千円	土地	2,137,391千円
計	2,641,746千円	計	2,611,241千円
上記に対応する債務		上記に対応する債務	
短期借入金	1,350,000千円	短期借入金	1,390,000千円
長期借入金	50,000千円	1年内返済予定の	長期 50,000 壬四
計	1,400,000千円	借入金	50,000千円
		計	1,440,000千円
  ※2. 国庫補助金等による圧縮記帳額		※2. 国庫補助金等による圧縮記	已帳額
国庫補助金等による圧縮記帳額は、26,867千円(建物		国庫補助金等による圧縮記	26,144千円 (建物
10,680千円、工具、器具及び備品 811千円、土地15,375		10,680千円、工具、器具及び	<b>が備品 89千円、土地15,375</b>
千円)であり、貸借対照表計上額から控除しておりま		千円)であり、貸借対照表計	上額から控除しておりま
す。		す。	

# (損益計算書関係)

前事業年度		当事業年度		
自 平成19年4月1日		自 平成20年4月1日		
至 平成20年3月	31日	至 平成21年3月	31日	
<b>*</b> 1.		※1. 期末たな卸高は収益性の低下に	伴う簿価切下後の金額	
		であり、次のたな卸資産評価損	が売上原価に含まれて	
		おります。		
			32,981千円	
※2. 研究開発費の総額		※2. 研究開発費の総額		
一般管理費に		一般管理費に		
含まれる研究開発費	125, 159千円	含まれる研究開発費	116,753千円	
※3. 固定資産売却益の内訳		※3. 固定資産売却益の内訳		
機械及び装置	1,183千円	機械及び装置	2,624千円	
車両運搬具	508千円	土地	6,362千円	
計	1,691千円	計	8,987千円	
※4. 固定資産売却損の内訳		※4. 固定資産売却損の内訳		
機械及び装置	2,049千円	建物	1,316千円	
車両運搬具	1,533千円	機械及び装置	13,978千円	
<b>=</b> +	3,582千円	車両運搬具	318千円	
		計	15,613千円	
※5. 固定資産廃棄損の内訳		※5. 固定資産廃棄損の内訳		
建物	63千円	建物	4,014千円	
機械及び装置	10,000千円	機械及び装置	21,365千円	
車両運搬具	965千円	車両運搬具	283千円	
工具、器具及び備品	963千円	工具、器具及び備品	1,055千円	
ソフトウエア	345千円	ソフトウエア仮勘定	2,089千円	
計	12,337千円	計	28,807千円	
6. 減価償却実施額		6. 減価償却実施額		
有形固定資産	872,442千円	有形固定資産	817,703千円	
無形固定資産	19,578千円	無形固定資産	21,083千円	

## (株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	17, 825	_		17, 825
合 計	17, 825	_		17, 825
自己株式				
普通株式	621	0	_	622
合 計	621	0	_	622

<sup>(</sup>注) 普通株式の自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

## 2. 配当に関する事項

## (1)配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成19年5月25日 取締役会	普通株式	60, 210	3.5	平成19年3月31日	平成19年6月13日
平成19年11月14日 取締役会	普通株式	51, 608	3.0	平成19年9月30日	平成19年12月10日

# (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成20年5月23日 取締役会	普通株式	51, 608	利益剰余金	3. 0	平成20年3月31日	平成20年6月11日

# 当事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

# 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	17, 825	_		17, 825
合 計	17, 825	_		17, 825
自己株式				
普通株式	622	0	_	622
合 計	622	0	_	622

<sup>(</sup>注) 普通株式の自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

# 2. 配当に関する事項

## (1)配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成20年5月23日 取締役会	普通株式	51, 608	3.0	平成20年3月31日	平成20年6月11日
平成20年11月5日 取締役会	普通株式	51, 608	3.0	平成20年9月30日	平成20年12月8日

# (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成21年5月22日	普通株式	51, 607	利益剰余金	3. 0	平成21年3月31日	平成21年6月10日
取締役会 (予定)	自进休八	51, 607	小盆粉示弦	5. 0	十八八八十 3 月 31 日	十成21年6月10日

# (キャッシュ・フロー計算書関係)

前事業年度		当事業年度	
自 平成19年4月1日		自 平成20年4月1日	
至 平成20年3月31日		至 平成21年3月31日	
※1. 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記さ		※1. 現金及び現金同等物の期末残高と貸	借対照表に掲記さ
れている科目の金額との関係		れている科目の金額との関係	
(平成2	0年3月31日現在)	(平成2	1年3月31日現在)
現金及び預金勘定	1,052,543千円	現金及び預金勘定	1,272,601千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△30,000千円	預入期間が3か月を超える定期預金	△30,000千円
現金及び現金同等物	1,022,543千円	現金及び現金同等物	1,242,601千円

### (リース取引関係)

前事業年度(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 (借主側) (注) リース資産に配分された減損損失はないため、項目等の記載は省略しております。

1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額 相 当 額 (千円)	減価償却累計額相当額(千円)	期末残高 相 当 額 (千円)
機械及び装置	292, 579	132, 081	160, 497
車両運搬具	11, 773	7, 526	4, 246
工具、器具及び備品	8, 467	5, 087	3, 379
ソフトウエア	17, 307	7, 554	9, 753
合 計	330, 127	152, 250	177, 876

(注)取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、 支払利子込み法により算定しております。

### 2. 未経過リース料期末残高相当額

1年内44,234千円1年超133,641千円合計177,876千円

(注)未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める 割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

### 3. 支払リース料及び減価償却費相当額

支払リース料45,374千円減価償却費相当額45,374千円

4. 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

当事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

ファイナンス・リース取引 (借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

- ①リース資産の内容
- (ア)有形固定資産

主として、生産設備(機械及び装置)であります。

(4)無形固定資産

ソフトウエアであります。

②リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載の通りであります。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、 通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。

(注) リース資産に配分された減損損失はないため、項目等の記載は省略しております。

## 1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額 相 当 額 (千円)	減価償却累計額相当額(千円)	期末残高 相 当 額 (千円)
機械及び装置	230, 119	107, 974	122, 144
車両運搬具	7, 981	3, 982	3, 998
工具、器具及び備品	8, 467	6, 605	1, 861
ソフトウエア	17, 307	10, 626	6, 681
合 計	263, 875	129, 189	134, 685

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

# 2. 未経過リース料期末残高相当額

 1 年 内
 43,955千円

 1 年 超
 90,730千円

 合 計
 134,685千円

(注)未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

# 3. 支払リース料及び減価償却費相当額

支払リース料44,206千円減価償却費相当額44,206千円

### 4. 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### (有価証券関係)

### 前事業年度

### 1. その他有価証券で時価のあるもの(平成20年3月31日)

	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額(千円)
	(1)株式	1, 175, 453	2, 035, 382	859, 929
貸借対照表計上額が取	(2)債券			
得原価を超えるもの	国債	300, 010	300, 180	169
	小計	1, 475, 463	2, 335, 562	860, 098
貸借対照表計上額が取 得原価を超えないもの	株式	239, 933	201, 298	△38, 634
合	計	1, 715, 397	2, 536, 861	821, 464

(注) 当事業年度において、その他有価証券で時価のある株式について 20,910千円減損処理を行っております。 なお、当該株式の減損に当たっては、時価が取得原価の30%以上下落した場合には、原則として減損処理しております。

### 2. 当事業年度中に売却したその他有価証券(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
267, 964	236, 239	_

#### 3. 時価評価されていない主な有価証券の内容及び貸借対照表計上額(平成20年3月31日)

2. A William G. A. 2. C. T. 2. I. W. W. A. D. A. L. A. L. A. M. C. A. M. C. A. A. C.		
種類	貸借対照表計上額(千円)	
(1)子会社株式	50,000	
(2) その他有価証券		
非上場株式	148, 336	

(注) 当事業年度において、その他有価証券の非上場株式について 24,520千円減損処理を行っております。 なお、当該株式の減損に当たっては、実質価額が取得原価の50%以上下落した場合には、原則として減損処 理しております。

### 4. その他有価証券のうち満期がある債券の今後の償還予定額(平成20年3月31日)

種類	1年以内(千円)	1年超5年以内(千円)	
債券			
国債	199, 990	100, 190	
合計	199, 990	100, 190	

### 当事業年度

### 1. その他有価証券で時価のあるもの(平成21年3月31日)

	種類	取得原価(千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額(千円)
	(1)株式	964, 870	1, 358, 120	393, 249
貸借対照表計上額が取	(2)債券			
得原価を超えるもの	国債	199, 864	200, 380	515
	小計	1, 164, 735	1, 558, 500	393, 764
	(1)株式	424, 926	351, 725	△73, 200
貸借対照表計上額が取	(2)債券			
得原価を超えないもの	国債	99, 391	99, 170	△221
付別価を超えないもの	社債	10,000	9, 930	△70
	小計	534, 318	460, 825	△73, 492
合	計	1, 699, 053	2, 019, 325	320, 272

- (注) 当事業年度において、その他有価証券で時価のある株式について 36,903千円減損処理を行っております。 なお、当該株式の減損に当たっては、時価が取得原価の30%以上下落した場合には、原則として減損処理しております。
  - 2. 当事業年度中に売却したその他有価証券(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
49, 458	32, 324	_

## 3. 時価評価されていない主な有価証券の内容及び貸借対照表計上額(平成21年3月31日)

種類	貸借対照表計上額(千円)	
(1)子会社株式	50,000	
(2) その他有価証券		
非上場株式	148, 586	

(注) 当事業年度において、その他有価証券の非上場株式について 1,045千円減損処理を行っております。 なお、当該株式の減損に当たっては、実質価額が取得原価の50%以上下落した場合には、原則として減損処 理しております。

## 4. その他有価証券のうち満期がある債券の今後の償還予定額(平成21年3月31日)

種類	1年以内(千円)	1年超5年以内(千円)	5年超10年以内(千円)
債券			
国債	200, 380	99, 170	_
社債	_	_	9, 930
合計	200, 380	99, 170	9, 930

# (デリバティブ取引関係)

前事業年度	当事業年度
自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日
至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日
当社は、デリバティブ取引を全く利用しておりませんの	同 左
で、該当事項はありません。	

# (持分法投資損益等関係)

前事業年度	当事業年度
自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日
至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日
該当事項はありません。	同 左

# (関連当事者との取引関係)

前事業年度	当事業年度
自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日
至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日
該当事項はありません。	同 左

# (税効果会計関係)

前事業年度		当事業年度	
平成20年3月31日		平成21年3月31日	
		1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の	の主な原因別の内
訳		訳	
繰延税金資産		繰延税金資産	
土地減損損失	443,926千円	土地減損損失	443,926千円
投資有価証券評価損	28,808千円	投資有価証券評価損	34,764千円
会員権評価損	46,769千円	会員権評価損	47,461千円
貸倒引当金	76,331千円	貸倒引当金	74,122千円
未払社会保険料(賞与)	20,380千円	未払社会保険料(賞与)	14,832千円
未払事業税	13,124千円	未払事業税	3,579千円
賞与引当金	148,739千円	賞与引当金	108,969千円
退職給付引当金	706,875千円	退職給付引当金	765,976千円
役員退職慰労引当金	101,334千円	役員退職慰労引当金	107, 169千円
その他	16,219千円	その他	19,959千円
繰延税金資産小計	1,602,510千円	繰延税金資産小計	1,620,762千円
評価性引当額	△514,176千円	評価性引当額	△613,022千円
繰延税金資産合計	1,088,334千円	繰延税金資産合計	1,007,739千円
繰延税金負債		繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△314,334千円	その他有価証券評価差額金	△123,739千円
繰延税金負債合計	△314,334千円	繰延税金負債合計	△123,739千円
繰延税金資産の純額	774,000千円	繰延税金資産の純額	884,000千円
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法	人税等の負担率と	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法。	人税等の負担率と
の間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となっ		の間に重要な差異があるときの、当該	差異の原因となっ
た主要な項目別の内訳		た主要な項目別の内訳	
法定実効税率	39.8%	法定実効税率	39.8%
(調整)		(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない	7.2%	交際費等永久に損金に算入されない	△45. 3%
項目	1.2/0	項目	△40.5 /0
受取配当金等永久に益金に算入され	△2.6%	受取配当金等永久に益金に算入され	16.9%
ない項目		ない項目	·
住民税均等割等	4.3%	住民税均等割等	$\triangle 28.6\%$
評価性引当額の増加	11.2%	評価性引当額の増加	$\triangle 244.1\%$
その他	0.6%	その他	△1.6%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	60.5%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	△262.9%

#### (退職給付関係)

### 1. 採用している退職給付制度の概要

	前事業年度
自	平成19年4月1日
至	平成20年3月31日

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度、適格退職年金制度及び厚生年金基金制度を設けております。

なお、当社は、中部印刷工業厚生年金基金に加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算できない場合に該当しますので、当該厚生年金基金への要拠出額を退職給付費用として処理しております。要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

(1)制度全体の積立状況に関する事項(平成19年3月31日) 年金資産の額 41,424,339千円 年金財政計算上の給付債務の額 43,075,333千円 差引額 △1,650,993千円

(2)制度全体に占める当社の給与総額割合(平成19年3月分給与総額割合)

9.5%

#### (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務7,506,332千円及び別途積立金5,540,554千円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は定率償却であり、当社は当事業年度の財務諸表上、特別掛金63,232千円を費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致しておりません。

#### (追加情報)

当事業年度より、「『退職給付に係る会計基準』の一部改正(その2)」(企業会計基準第14号 平成19年5月15日)を適用しております。

当事業年度 自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度、適格退職年金制度及び厚生年金基金制度を設けております。

なお、当社は、中部印刷工業厚生年金基金に加入しておりますが、当該厚生年金基金制度は、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算できない場合に該当しますので、当該厚生年金基金への要拠出額を退職給付費用として処理しております。要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります

(1)制度全体の積立状況に関する事項(平成20年3月31日) 年金資産の額 33,090,163千円 年金財政計算上の給付債務の額 44,692,087千円 差引額 △11,601,923千円

(2)制度全体に占める当社の給与総額割合(平成20年3月 分給与総額割合)

9.5%

#### (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務7,116,262千円及び当年度不足金10,340,999千円と別途積立金5,855,338千円の差額であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は定率償却であり、当社は当事業年度の財務諸表上、特別掛金64,344千円を費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社の実際の負担割合とは一致しておりません。

#### 2. 退職給付債務に関する事項

	前事業年度	当事業年度
	平成20年3月31日	平成21年3月31日
①退職給付債務	△2,200,560千円	△2,300,548千円
②年金資産	336, 282千円	346,635千円
③未積立退職給付債務(①+②)	△1,864,278千円	△1,953,912千円
④未認識数理計算上の差異	86,870千円	27,897千円
⑤退職給付引当金(③+④)	△1,777,407千円	△1,926,015千円

# 3. 退職給付費用に関する事項

	前事業年度	当事業年度
	自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日
	至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日
①勤務費用	291,067千円	292, 284千円
②利息費用	43,882千円	44,011千円
③期待運用収益	△3,965千円	△4,707千円
④数理計算上差異の費用処理額	71,780千円	63, 528千円
⑤退職給付費用 (①+②+③+④)	402,765千円	395, 116千円
	(注) 上記①勤務費用には、中部印刷	(注) 上記①勤務費用には、中部印刷
	工業厚生年金基金への要拠出額	工業厚生年金基金への要拠出額
	167,807千円を含めております。	169,129千円を含めております。

# 4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前事業年度	当事業年度
	自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日
	至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日
①割引率	2.0%	2.0%
②期待運用収益率	1.2%	1.4%
③退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	期間定額基準
④数理計算上の差異の処理年数	5年	5年

### (ストック・オプション等関係)

前事業年度(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1)ストック・オプションの内容

	平成15年ストック・オプション	
付与対象者の区分及び人数	当社使用人 249名	
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 507,800株	
付与日	平成15年7月1日	
	付与日(平成15年7月1日)以降、権利確定日(平成17年	
権利確定条件	6月30日)まで継続して当社もしくは当社子会社等の役員	
	または従業員の地位であること。	
対象勤務期間	平成15年7月1日から平成17年6月30日まで	
	平成17年7月1日から平成20年6月30日まで	
	なお、権利確定後退職した場合は権利を喪失する。ただ	
権利行使期間	し、任期満了により退任した場合、その他取締役会が特別	
	にその後の新株予約権の保有および行使を認めた場合はこ	
	の限りでない。	

(注)株式数に換算して記載しております。なお、平成17年11月18日付をもって株式 1 株を 2 株に分割しておりますので、株式分割後の数値を記載しております。

# (2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。なお、平成17年11月18日付をもって株式1株を2株に分割しておりますので、株式分割後の数値を記載しております。

①ストック・オプションの数

	平成15年ストック・オプション
権利確定前(株)	
前事業年度末	_
付与	_
失効	_
権利確定	_
未確定残	_
権利確定後(株)	
前事業年度末	491, 800
権利確定	_
権利行使	_
失効	3, 200
未行使残	488, 600

### ②単価情報

	平成15年ストック・オプション	
権利行使価格(円)	448	
行使時平均株価 (円)	_	
付与日における公正な評価単価(円)	_	

当事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1)ストック・オプションの内容

	平成15年ストック・オプション	
付与対象者の区分及び人数	当社使用人 249名	
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 507,800株	
付与日	平成15年7月1日	
	付与日(平成15年7月1日)以降、権利確定日(平成17年	
権利確定条件	6月30日)まで継続して当社もしくは当社子会社等の役員	
	または従業員の地位であること。	
対象勤務期間	平成15年7月1日から平成17年6月30日まで	
	平成17年7月1日から平成20年6月30日まで	
	なお、権利確定後退職した場合は権利を喪失する。ただ	
権利行使期間	し、任期満了により退任した場合、その他取締役会が特別	
	にその後の新株予約権の保有および行使を認めた場合はこ	
	の限りでない。	

- (注)株式数に換算して記載しております。なお、平成17年11月18日付をもって株式 1 株を 2 株に分割しておりますので、株式分割後の数値を記載しております。
  - (2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。なお、平成17年11月18日付をもって株式1株を2株に分割しておりますので、株式分割後の数値を記載しております。

①ストック・オプションの数

	平成15年ストック・オプション
権利確定前(株)	
前事業年度末	_
付与	_
失効	_
権利確定	_
未確定残	_
権利確定後(株)	
前事業年度末	488, 600
権利確定	1
権利行使	1
失効	488, 600
未行使残	-

(注) ストック・オプションの権利行使期間満了に伴い、平成20年7月1日付で権利未行使分の新株予約権2,443個 (488,600株) を無償消却いたしました。

### ②単価情報

	平成15年ストック・オプション	
権利行使価格(円)	448	
行使時平均株価 (円)	_	
付与日における公正な評価単価(円)	_	

### (企業結合等関係)

前事業年度	当事業年度	
自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日	
至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日	
該当事項はありません。	同 左	

## (1株当たり情報)

, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
前事業年度		当事業年度	
自 平成19年4月1日		自 平成20年4月1日	
至 平成20年3月31日		至 平成21年3月31日	
1株当たり純資産額	636.84円	1株当たり純資産額 604.24円	
1株当たり当期純利益金額	6.07円	1株当たり当期純損失金額 8.54円	
潜在株式調整後1株当たり当	с осш	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜	
期純利益金額	6.06円	在株式が存在するものの1株当たり当期純損失であるため	
		記載しておりません。	

- (注) 1. 表示単位未満の端数は四捨五入しております。
  - 2. 1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額 (△) 及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の 算定上の基礎は、以下の通りであります。

<u> </u>	7.0	
	前事業年度	当事業年度
	自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日
	至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益又は当期純損失(△)(千円)	104, 389	△146, 964
普通株主に帰属しない金額(千円)	_	_
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失 (△) (千円)	104, 389	△146, 964
普通株式の期中平均株式数(株)	17, 202, 975	17, 202, 746
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額 (千円)	_	_
普通株式増加数(株)	12, 798	_
(うち新株予約権(株))	(12, 798)	(-)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1		旧商法に基づく新株予約権1種類
株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった		なお、平成20年6月30日に権利行
潜在株式の概要		使期間が満了しております。
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

# 3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

of Topical Application of Applicat				
	前事業年度	当事業年度		
	自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日		
	至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日		
純資産の部の合計額 (千円)	10, 955, 449	10, 394, 540		
純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)	_	_		
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	10, 955, 449	10, 394, 540		
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(株)	17, 202, 918	17, 202, 600		

## (重要な後発事象)

前事業年度	当事業年度	
自 平成19年4月1日	自 平成20年4月1日	
至 平成20年3月31日	至 平成21年3月31日	
該当事項はありません。	同 左	

## 5. その他

(1) 役員の異動

① 代表者の異動(平成21年6月24日付予定) 平成21年3月13日開示済み

代表取締役副会長(現 代表取締役社長) 田 中 勝 英 代表取締役社長(現 代表取締役副社長) 田 中 義 一

② その他の役員の異動(平成21年6月24日付予定) 平成21年3月13日開示済み

1. 新任取締役候補

取締役執行役員(現執行役員マーケティング開発部長)今 井稔取締役執行役員(現執行役員製造副本部長)竹 林 啓 路

2. 退任予定取締役

取締役常務執行役員監査室長 浅野宣久

# (2) その他

# ① 生産、受注及び販売の状況 以下の各項目の記載金額には消費税等は含まれておりません。

## 1. 生産実績

1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1					
区分	区 分     前事業年度       自 平成19年4月1日       至 平成20年3月31日       金額(千円)     前年同期比(%)			年度 - 4 月 1 日 - 3 月31日	
			金額 (千円)	前年同期比(%)	
一般商業印刷物	11, 181, 512	100.5	11, 202, 669	100. 2	
出版印刷物	2, 154, 841	87. 5	1, 827, 156	84. 8	
包装印刷物	1, 329, 433	106. 3	1, 468, 245	110. 4	
計	14, 665, 787	98.8	14, 498, 071	98. 9	

<sup>(</sup>注) 金額は販売価格で表示しております。

## 2. 受注実績

# (A)受注高

区分	前事業年度 自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日		当事業年度 自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日	
	金額(千円)	前年同期比(%)	金額(千円)	前年同期比(%)
一般商業印刷物	11, 248, 168	98. 9	10, 980, 036	97.6
出版印刷物	2, 056, 228	83. 2	1, 827, 468	88. 9
包装印刷物	1, 335, 968	108. 9	1, 453, 774	108.8
計	14, 640, 365	97. 1	14, 261, 278	97. 4

<sup>(</sup>注) 金額は販売価格で表示しております。

# (B)受注残高

	前事業年度		当事業年度	
区 分	平成20年3月31日		平成21年3月31日	
	金額 (千円)	前年同期比(%)	金額 (千円)	前年同期比(%)
一般商業印刷物	1, 035, 483	105. 7	809, 292	78. 2
出版印刷物	223, 121	69.0	209, 574	93. 9
包装印刷物	109, 064	108.0	97, 558	89. 5
計	1, 367, 669	97. 4	1, 116, 425	81.6

<sup>(</sup>注) 金額は販売価格で表示しております。

# 3. 販売実績

	0. 水人ノロラマ/19				
	区分	前事業年度		当事業年度	
		自 平成19年4月1日		自 平成20年4月1日	
		至 平成20年3月31日		至 平成21年3月31日	
		金額 (千円)	前年同期比(%)	金額 (千円)	前年同期比(%)
	一般商業印刷物	11, 192, 115	100. 7	11, 206, 226	100. 1
	出版印刷物	2, 156, 506	87. 1	1, 841, 015	85. 4
	包装印刷物	1, 327, 872	106. 1	1, 465, 279	110. 3
	計	14, 676, 495	98. 9	14, 512, 521	98. 9